

歴史関係アドバイザーとの意見交換結果について

- 1 . 日時：令和 3 年 8 月 27 日(金) 13 時 30 分～15 時 00 分
- 2 . 場所：Web 会議による開催
- 3 . 目的：県庁舎跡地の活用における、歴史情報等の効果的な情報発信や歴史を活かした賑わい創出等についてご意見をいただく
- 4 . 出席者：
 - ・糸屋 悦子（株式会社イーズワークス代表）
 - ・大田 由紀（長崎史談会理事）
 - ・木村 直樹（長崎大学多文化社会学部教授）
 - ・野上 建紀（長崎大学多文化社会学部教授）
 - ・野田 伸治（有限会社グランド企画代表）（五十音順、敬称略）
- 5 . 主な意見
 - ・歴史的に中心であり続けた重要な場所である。何か建物を建てる、象徴するようなものを造ることは、この場所の重層的な歴史の意味が伝わりにくいのでやめた方がよい。
 - ・キリスト教伝来時の中核のひとつであり、また、幕末にはわが国の近代化につながる医学伝習や海軍伝習が行われるなど、本県の二つの世界遺産にも深く関係のある場所である。これらの発信は、広場のような空間として、必要に応じて V R（仮想現実）などの色々な方法で伝えていくことが肝要ではないか。
 - ・景観で意識すべき点は、出島との一体性だけでなく、奉行所が覗いていた対象が、出島はもとより、新地や唐人屋敷、朝鮮人と関わった対馬藩の蔵屋敷など、幅広く外国人の動向であったこと。そのような長崎の国際交流の歴史を象徴することを考えて空間をできるだけ確保してほしい。
 - ・この場所は歴史的な重層性と同時に異文化との交流や多様な人との繋がりを持つ場所であり、こうした多様な共生というコンセプトを象徴する場所にもなりうるのではないか。
 - ・江戸時代の石垣、町家や明治以降の県庁の遺構など、色んな遺構が重なり合っており、これらの本物の重なりを視覚的に見えるようにしてほしい。
 - ・特定の時代の建物などを復元するのは良い方法でなく、仮に建物を建てる場合も、可変性を持たせるために仮設として、利用状況を確認しながらエリアの在り方を考えていくほうがいい。
 - ・景観を邪魔しない平面表示などを検討してほしい。また V R などを使って、この遺跡の意義を多くの人に知ってもらいたいと思う。
 - ・建物の遺構などは見つからないが、石垣部分や敷地の東側や西側部分を

県の史跡に指定にすることも考えていいのではないか。

- ・石垣は全国的な城郭ブームの中、人々の関心がある部分だと思う。出島と歴史的に一体であるところもこの場所の価値のひとつであり、出島からも石垣が見えるような空間の使い方などを検討してほしい。
- ・県警本部跡地で展示などを行い、県庁舎跡地は広場として、あまり建物を建てず、皆さんにこの場所に立ってもらい、歴史を感じてもらいたい。まず、県民市民に早く空間を公開し、この地がどういう場所であったかを知ってもらうことが大事。
- ・現在県庁跡地がどのような状況なのか県民市民は見る事が出来ない。早い段階で県庁跡地を開放し、県民市民に見てもらって議論を深めてもいいのではないか。
- ・情報発信のやり方は段階的に変わるものであり、県民市民に公開し体感してもらうことで、色んなアイデアが出てくると思う。
- ・このエリアのあり方を考えるには、(1571年の開港当時に作られた)旧6町エリアから立山まで、江戸時代から中心となってきた長崎の旧市街地を含めて検討していく必要があると思う。
- ・県と市が一体となった事業を展開してほしい。県庁移転などでこの周辺は人の流れが変わって経済的に厳しいので、県警本部跡地などこの周辺に、核となるような観光資源の施設、長崎くんちの資料館と常設の棧敷席を検討してほしい。長崎くんちの歴史は長崎町人の歴史でもあり、この県庁跡地の歴史にも密接に関わっている。
- ・多くの人に来てもらうためには、意義や中身が立派であるだけでなく、とてもカッコイイ場所だと思ってもらえることも必要。国内外の観光客、県民が、どうしてもここだけは足を運んでおきたいと思える場所になってほしい。そのためには、東京の代官山 T-SITE のような魅力を持った施設も必要ではないか。
- ・身近でないので「県庁舎跡地」という言葉を変えたほうがいい。
- ・その場所に本物の魅力があれば、自ずと人々は関心を持つし、マスコミ等も取り上げてくれる。県庁舎跡地には沢山の切り口(魅力)があるので、先ず動き出して、その中で発信の仕方や内容も考えていけばいいのではないか。